所
---

(三) 構造	(二) 蘆屋層	<ul><li>(u)</li><li>芳谷層</li></ul>	<ul><li>(1)</li><li>嚴木層</li></ul>	(一) 相知層	二、古第三系	一、 結 晶 片 岩 系	第一章 地 質	日次	圖幅第二七九號 地質說明
10頁	九頁	七頁	五頁	五頁	五頁	一頁	自一頁至三〇頁		書

第二章 ニキニ、 二 十 1 二 十 + \* Ξ + + , +十八、 +八 + + t  $^{+}$ 九 五 ÷ 长 六 四、 Ξ (--) 九 五 四 Ξ, = (二) (一) 石綿 石炭 -, 格魯謨鐵鑛 、花崗斑岩及石英一楣石花崗閃絲岩 花崗閃綠岩 含角閃石黑雲母花崗岩 第四系 片狀兩雲母花崗岩 斑 黑 兩雲母花崗岩 相知炭礦 雲母角閃安山 角閃煌 蛇紋岩 角閃橄 兩 閃綠岩 角閃 現世統 更新統 半花崗岩及ベグ 狀黑雲母花崗岩 半 雲母花崗岩 應 玄武岩 一花崗岩質花崗岩 火成岩相互 輝 用地 石 斑 安山岩 欖岩 斑岩 耦岩 皙 岩 1 關係 マタイト 岩 自三一頁至四四頁 Ξ 三三頁 三三頁 三頁 三四頁 三〇頁 二九頁 二九頁 二八頁 二七頁 二六頁 二五頁 二三頁 二頁 二六頁 二〇頁 一七頁 六頁 八頁 五頁 五頁 四頁 三頁 三頁 二頁 一頁 一頁

1. 色 = 小 タルモ 本系ハ ۴ 岩 シテ、黑雲母片岩石英片岩線羅角閃片岩及綠簾綠泥片岩ノ累層目 雪母 石 縞 城 釈 片岩 圖幅 7 1 暗 圖縱 第一章 + + 紫 幅第二七九號行二四橫行三三 n 地域ノ北部並ニ花崗岩類 -te 色 七六五 八 本岩ハ恐ラク 四、 ~ 2 n 暗 1 (四) (三) (二) ÷ 禍 結晶片岩系 温泉及鑛泉 建築 砥材 粘土及 石灰 黑 1 新屋敷炭矿 住 岩 色 ŀ 地 石 7 乃 友嚴木炭礦 屋 IJ 至 材 炭 甑 ,古生 層 紫黑 ÷ t 礦 地 ۴ 色 2 質 質 テ 7 = 石 뭎 甗 , 說 英及黑雲母 2 z 南 片 n 緣 明 粘板 理 -商工技 書 顯 沿 岩 著 Ł H + 或 小 (昭和九年稿) ŋ n 2 厲 師 砂 成 城 ÷ 贒 ŋ 1 25 粘板 露出 ٢ 赤 稍 粗 岩 ŋ 2 粒質 域. 1 成 變質 ŋ 內最 木 石灰 = 2 古 1 ,結果生 四 9 岩ヲ挾ム 1 紫褐色 虁 四三頁 四二頁 四〇百 三九百 四二頁 四一頁 三六頁 四一頁 質 成 水 健 ŀ 成 セ 白 5 岩

<ul> <li>山南東島市、東島市、東島市、東島市、市、市、市、市、市、市、市、市、市、市、市、市、</li></ul>
---

本層ハ下部ヲ占メ石炭ヲ (イ)	= 芳谷ノ兩層= 區別セラル山岩並=玄武岩=ヨリテ被覆並=小城町西方附近= 亙リテ	古第三系、所謂唐津炭田	ルコト能ハサレトモ恐ラクホ	セサルコトアリ是レ兩者間、理ハ北六十度乃至七十度西回、小城郡笠頭山ノ西方三於テレ	ヲ示ス而シテ花崗岩類	とニ亜キ石英片岩及石灰岩、 「「「「「「」」」」 「「」」」 「」」 「」」 「」」 「」」
~ 層	依レハ相知層及蘆屋層ノ二層 = 磁速ス其北邊部ハ結晶片岩系及	炭層ノ北部=該當シ、圖幅地南西	古生層ヨリ變質シタル結果生成セニカニ加フルニ化石ヲ存セサルヲ以	ニハ成因上密接ナル關係ノアルコ・ニハ成因上密接ナル關係ノアルコ・テハ黒雲母片岩及石英片岩相学シ	橄欖岩等ニヨリ貫通セラルニアト度東ニ走リ北方ニ四十度に開出スルモノハ黒雲母片岩發	ハ露出贏敏族小ナリ ハマン こましき レキアタイトノ貫入ニ クルモノアリ前者ハ黄褐色ヲ呈シ クルモノアリ前者ハ黄褐色ヲ呈シ 、露出贏敏族小ナリ
咸木層及芳谷層ニ分ッ	大別セラレ前者ハ更ニ嚴木並深成岩類ヲ被ヘトモー部ハ安	ナル東松浦郡相知殿水兩	ラレタルモノナルヘシア共暦序並ニ地質時代ヲ定	トヲ示スモノナルヘシ 懐烈ス しアテスモノナルヘシ	乃至七十度內外ニ急科シ單	<b>雲母片岩ニシテ線簾角閃片</b> マトモ花崗岩類ノ縁邊ニ沿 マトモ花崗岩類ノ縁邊ニ沿

暦タル五尺暦及三尺暦ヲ挾ム三尺暦ヨリ上部	白色砂岩及頁岩層 前者ハ白色中粒質後者	岩ノ互層上部ニ白色砂岩發達シ主要炭層ヲ夾有	本層ハ芳谷層ノ下部ヲ占メ嚴木層上ニ整合	(甲) 下部層	IJ - モッ リ	本層ハ嚴木層上ニ整合シ唐津炭田ノ主要夾炭	(P) 芳谷屑	y	同氏ハ本化石層ヲ Athleta (Volutorgina) japonica Zoneト稱シ上部始新	Cerbula subtumida Nagao	Solen sp.	Tellina maxima Nagao	Tellina aff. tricarlnata Nagao	Athleta (Volutospino) japonica Nagao	Ampullina sp.	Orthaulax jayonicus Nagao		存在セル介化石へ理學博士長尾巧氏ニヨレハ	化石及時代 本層ノ中部及上部ニ介化石層	レ黒色硅化木ヲ伴フヲ以テ特徴トス	本層中ニハ上部境界ヨリ二百四十米内外ノ	至暗青色ヲ星シ中粒乃至粗粒ニシテ砂質頁岩	砂岩及頁岩 雨岩へ五層シ下底ノ厚サ六十	本層、主トシテ砂岩及頁岩ヨリ成リ炭層及	厚ハ約二百七十米内外ナリ	ニシテ、地表ニ於テハ何レモ斷層ニョリテ古期岩ト	本層ハ最下部ラ占メ岩屋ノ東町切篭木嚴木
ニ於テハ兩岩	、灰色ヲ量シ	イオス	シ共厚サ六十			層ナリ、本			Zone ト稱シ.上	+	+	÷	+	+	+	÷	慶木坑	次ノ如シ	ヲ夾ミ化石層		下部ニ炭層ヲ	岩ヲ伴ヒ,頁岩ハ	米ノ間=蠻岩	化石ヲ埋蔵ス		接ス、試	附近並二多
ハ夫々薄層	兩者へ互層		米餘=達シ下			暦ヲ便宜上下			期ヲ	+	+	+	+	+	+	+	徽木		高い炭 暦上 二		夾ミ炭層ハ	灰色乃至黑	ヲ挟有ス砂	~		銚ニヨレハ圖	久炭坑附近=
ヲナシ俗ニ千枚ト稱	シ唐津炭田ノ主要炭		下部二白色砂岩及页			部及上部ノ兩層ニ大			示スモノナリト論セ		+		+		+		मा <b>र</b> ध		激層アリ炭層直上=		嚴木五尺層ト稱セラ	灰色ヲ呈ス	岩い灰白色淡緑色乃			圖幅地内ニ於ケル全層	僅カニ露出スルノミ

=存在セル介化石ハ	礫質ヲ帯ヒ白點ヲ散布シ往々介化石ヲ含有ス	綠色砂岩層 暗青色乃至綠灰色ヲ呈シ中粒乃至粗粒ニシテ往々海綠石粒ニ富ミ時、	砂質頁岩及頁岩層。兩者ハ何レモ灰色乃至線灰青色ヲ呈シ互層ス	占 み 一 おおい ひょう	如シ	石砂岩ヨリ成リ、圖幅內ニ於テハ其厚サ五百來內外ニ達セリ、之ヲ構成スル岩暦ヲ下部	本層ハ芳谷層上ニ整合シ多数ノ介化石ヲ含有シ炭層ヲ夾有セス主トシテ頁岩砂岩	(二) 蘆屋層	頁岩層 淡灰色ニシテニ枚物六寸出來石等ノ炭層ヲ夾有ス	白色砂岩層 本岩ハ上部ニ及フニ從ヒ稍青色ヲ帯フルニ至リ上部ニ鬼石炭層ヲ夾	含頁岩白色砂岩層 白色砂岩ニシテ灰色頁岩ノ薄層ヲ挾ミ上下兩部ニ各一炭層ヲ	白色砂岩層 前記砂岩ト同類ニシテ厚サ三十米内外ニ達シ上部ニ近ク炭層ヲ挟ム	コトアリ、上部ニニ枚物、一枚物ノ炭層ヲ夾有ス	真岩及砂岩層 真岩ハ灰色砂岩ハ白色中粒ニシテ概シテ後者發達スレトモ展々互降	母ヲ包有シ屢々偽層ヲナス本岩ハ浸蝕ニ堪ユルヲ以テ懸崖ヲナスコト多ク特有ナル	白色砂岩層 白色中粒乃至粗粒ノ硅質砂岩ニシテ時ニ稍縞状ヲナスコトアリテ何ン	凝灰質頁岩砂岩及凝灰岩層 本岩層ノ上部ニハ七ヘダ炭層ヲ夾有ス	就中後者ハ全層ニ互リテ發達著シ下位ヨリ上位ニ順次記述スレハ次ノ如シ	本層ハ下部層上ニ整合シ厚サ百四十米内外ニ達シ頁岩凝灰岩及白色砂岩ノ五層ヨッ	(乙) 上部層	sp., Cordicula sp. 等 ヲ 含有 セ リ	化石 石炭=伴とTaxodium sp.其他ノ植物化石豆產スル外三尺炭ノ上方=ハ介化石	白色砂岩層 中粒質ニシテ厚層ヲナシ時ニ偽層ヲナシ下底ニ凝灰質砂岩ヲ挾ミ管	セラル
		富		屋層		ヲ 下	員若砂岩及海綠			層ヲ	炭層	ヲ 挟		展 *	有ナ	y		10	五層			介化	挾	

....

臺土·至度東 地 コーニー ステニ古ス フリ・ナ外・ナー・ハー・加
---

キ共 = 微文象構造ヲテス 研長石ハ牛自形卓振 = シテー二粍以下ヲ普通トスレトモ時 = 七粍 「大」 一 町 加 一 町 正長石 ハ大サ○五粍以下ノモノ多ク破砕構 「大」 一 駅 両 雲 母 化 岡 岩 本岩ハ闘幅ノ北部ナル小城郡三綱峠附近 = 現出シ結晶片岩系並 = 花崗閃経岩ヲ貫キ閃縦 本岩ハ闘幅ノ北部ナル小城郡三綱峠附近 = 現出シ結晶片岩系並 = 花崗閃経岩ヲ貫キ閃縦 本岩ハ闘幅ノ北部ナル小城郡三綱峠附近 = 現出シ結晶片岩系並 = 花崗閃経岩ヲ貫キ閃縦 本岩ハ闘幅ノ北部 - シテ圭成鑛物ハ同一方向 = 配列シ稍片理ヲ示シ悩非狀構造ヲ呈ス 生成分 石英正長石鮮長石黒雲母白雲母 副成分 石英正長石が展着上、共外観ヲ異ニス 主成分 石英正長石が最子工業の新レスレトモ概シナ○五粍以下ノモノ多ク破砕構 る英ハ他形 = シテ最大ナルモノハ二粍内外ナレトモ概シナ○五粍以下ノモノ多ク破砕構 石英ハ他形 = シテ最大ナルモノハ二粍内外ナレトモ概シナ○五粍以下ノモノタク破砕構 の成分	<ul> <li>(二 現世税</li> <li>(二 現世税</li> <li>(二 現世税</li> <li>本層へ粘土砂及礫ョリ成リ河流ノ沿岸及平地ヲ構成ス</li> <li>本層へ粘土砂及礫ョリ成リ河流ノ沿岸及平地ヲ構成ス</li> <li>本層へ粘土砂及礫ョリ成リ河流ノ沿岸及平地ヲ構成ス</li> <li>本層へ粘土砂及礫ョリ成リ河流ノ沿岸及平地ヲ構設賞ノモノ多ク花崗岩構造ヲ示ス</li> <li>主成分 — 石英正長石 新二年 化 崗 岩</li> <li>「」 現世税</li> <li>「」 現世税</li> </ul>
--	--

Ξ

11

I

、 の 二 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	本岩八圖幅地域西部二廠 八、含角	ルモノニアリテハ五糎ニニ	石ノ大晶ノ散點シ斑	岩石 灰白色中位賞 = ハ刺然セサルヲ常トス	東部	七、斑狀	裴片状ヲ呈シ風信子鑛ヲ含	片双晶ヲナスヲ常トシ往々	シテ汚濁ス、屢々石英ト共	サ 以 ー 下 耗 ノ	成分 — 微弱長石線	主成分 —— 石英正长石;岩石 灰白色或八淡褐	出シ閃雲花崗岩ニ移過セ	本岩ハ圖幅地內ノ北東	六、黒 雲	ヲナス	柘榴石ハ紅色ヲ帯ヒ大	ヨリ著シク少量ニシテ大	多ク風信子鑛ヲ包裹スル	ヲ包裹ス累雲母ハ薬片狀	ニ違スルモノヲ雑へ聚片
並雲至副ヲ其石ア $\mathcal{U}$ $\mathcal{P}$ $\mathcal{U}$ $\mathcal{V}$ $\mathcal{U}$ $\mathcal{P}$ $\mathcal{U}$ $\mathcal{U}$ $\mathcal{V}$ $\mathcal{U}$ $\mathcal{V}$ $\mathcal{U}$ $\mathcal{V}$ $\mathcal{U}$ <	() 雷出シ相石花崗闪線岩図	ルモノアリテ正長石斜長	ヲ呈セルモノニシテ主成分並	テ白色遊勘ヲ育シ斑状ヲ星ス	こへ レ 黒雲母花崗岩 トハ 密接 ナ	黑雲母花崗	ムモノハ多色性量ヲ示シ又分	累帯構造ヲ示シ燐灰石風信	微文象構造ヲナスコトアリ、斜	下ヲ普通トシ軍晶又ハ「カールノ多ク他鎭物ノ間隊ヲ充シ」屢	石鳞灰石、風信子鏡榍石、磁鐵鏡	長石、黒雲母	y	一般木村作禮山ノ北方、脊振山頂	母花崗		○三粍乃至一粍風信子鏑ハ後	一粍以下	ノハ多色性量ヲ示シ又時ニ線	シテ大サ〇五粍以下ノモノ普	晶發達シ往々一部絹雲母ニ變
「潮 裏トナ花 過 アス小┃	並 三 黒 雲 母 花 崗 岩	母其他ノ微晶ヲ	副成分ハ該岩ト同様	ヲ時質トス、卵チ前肥	關係ヲ有シ相互ニ		シテ線泥化セルコト	其他微粒質物ヲ包	ハ大サ正長石ヨ	バド」武双晶アナスモ	等	<b>ヲ</b> 呈		近仁比山村及愛宕			ヲナシ燐灰石ハ短		化スルモノアリ白	ニシテー定方向ニ	スルコトアリテ燐

<sup> </sup>
--------------

t

下 外展 4 ŋ 花崗 稍 トア 色ヲ 出 1 双 岩 副 主 岩 半 -斜 JE 兩 不 柘榴石 徦 ス、岩 齐 石 副 主 岩 本 晶 石 長 長 成 成 石 花 2 厭 x 岩 岩 規 晶 ŋ 帶 英 成 成 振 石 岩 基 分 分 20 テ 石 石 崗 ~ 同 22 質 则 村 ヲ 斜 ~ Ŀ 分 分 胝 15 富 岩 紅 2 ~ 白 栩 何 -花 且 長 白色淡 附 大 ナ 2 3 へ幅 麗 大 岩脈 A 小 色 色 x |崗岩中 v " 近 2 稀 石 n + 幅 石 \* 斜 IF. ₹ 或 量 Ŧ 麗 ÷ 大 士, 及黑 共 -の元 の五 -÷ 白 石英正長石 地 長石白 英及長石 帶 畏 幅 ----2 3 中 25 花 ナ 量 禍 露 存 > 禦 北 石及石 粍 淡 地內 巖 Ł 2 數 -= n 僮 耗以 出 在 雲 7 母 色 米乃 四 燐 Ť 11 裼 ナ 兩 岩 包 ÷ 母 ÷ 13 2 ŋ 或 柘 隅 首 雲 灰 F 白 半 an. n 者 類 括 1 大 + ハ共 い淡紅 至十 n 下 榴 濱 半 槪 於テ з 母、黑 石 雲 英 色 7 及結 -Э 2 多 ŋ \* 石 斜 花 ÷ 2 1 畸 y 以 花 母 T. 2 7 2 テ 2 0÷ = テ 燐 長 ノ北 數 モ 胧 針 花崗 及 テ 雲 昰 テ 晶 崗 绘 -本 分解 25 少 ノ多 灰石風信 石黑雲母 禍 米 崗 y 狀 뿂 分 母 シ.細 地 縞 片岩類ヲ賞 岩及 色 岩 耗 最 微硅長 色ヲ 25 = 方 晶 雲 解 柘 岩 質 厭 2 岩 ÷ 脈 以 逺 -1 2 海 7 榴 類 母 2 粒 岡 ヲ呈 IJ ~ 1 F 結果汚濁 1岸及同中 微 呈 2 シ花崗 質 ヲ貫 テ + 石 ~ 質 Ŀ 地 テ後者 7 = 粒 子銷 3 ~ 質 鳞 汚 燐 2 -28 2 花 質 シテ 質 37 細 灰 或へ 構造ヲ呈 テ 片 濁 中 + ~ v グ 間 1 物 榍 粒乃 閃 崗 岩脈 共 長 胀 石 7 2 岩脈ヲ Ŀ. ŀ 赤 ~ ス 央 石 綠 7 石 石 磁 ₹ 微 主 不 7 ショ區 7 岩 n 裼 時 包 岩 练 至 部 或 英 花 7 + 鐵 規 ナ カ 複 色ヲ = ヲ常 及 裹 中 神 ス 鏑 2 2 22 崗 + 则 n + 線泥 岩 花 2 粒 崎 石 テ 大 1 牛 質 2 ÷ = 2 別 昰 厭 ŀ Æ 祱 郡 質 英 僅 洪 + 構 混 1 テ ス ス、燐 7 石 ٢ 岩 2 長 ナ 背 中 い七 力 幅 交シ 現 遹 • n 禱 -宕 石 4 ŋ 振 --7 五 3 出 :1 灰 變化 成 英ト 村 25 218 包 散 耗 飌 示 7 テ 2 ŀ 石 ÷ 多 貫 附 裏 在 以 乃 塗 複 2 失 困 n ~ 共 Z 量 λ 近 セ ス 下 至 色 岩 2 難ナ ÷ 針 = z = 柘 7 厭 25 -·t: 單 1 狀 微 2 岩 檑 n \* ₹ 2 IJ 獨 n 7 或 文 テ 脈 10 石 テ 內 構 -7 リ、而 象 岩 2 ヲ 微 2 外 成 岩 11 炍 構 脈 ナ 大 粒 ヲ ス 厭 テ 2 柱 造 v + 質 背 N 7 便 ÿ. 肤 7 э テ -物 通 12 ナ 宜 其 磁 示 y 數 粍 = ŀ ŀ -1: 幅 .E 鐵 ス 肉 多 以 富 ス 7 n 半 ~ 鏥 :27 紅 现

ナルヲ普通トシ閃線岩構造ヲ示ス岸川附近ニ露出スルモノハ概シテ粗:2年イー 方黒色児産約黒色ヲ星シ僅カニ白色部ヲ雑ヘ小岩賦ヲナスモ	貫通セラル北多久村佛坊相ノ浦間ニハ球歌閃線岩ノ漂轉セルモノ	郡北多久村岸川附近ニ現出スルモノハ結晶片岩ヲ賞キ花崗岩類ト	本岩ハ小城郡三瀬村及早良郡内野村野河内附近ニ露出スルモノハ兩	十四、閃綠岩	ニ及フモノアリ、多色性著シゴゼノタイム」、暗灰緑色ヲ显シ大サ三粍內外	クハ青玉ヲ包裹ス青玉ハ紅柱石中ニ産シ藍青色ヲ呈シ粒狀或ハ柱狀ニ	ヲ帶ヒ不透明乃至牛透明ノ大晶ニシテ其大ナルモノハ長サ十糎徑六糎	長サ二十糎以上、徑三糎內外ニ塗スルモノアリ、紅柱石ハ正長石中ニ産シ	ナルモノハ黒褐色ヲ呈シ徑七額ニ達スルモ多カラス。電氣石ハ.黒色ニシ	體ヲナシ大ナルモノハ長サ八糎以上徑五糎ニ及ヒ柘榴石粒ヲ包裹スル	明ナル薔薇石英ニ屬スルモノ大塊ヲナセリ、黒雲母ハ褐黒色ニシテ六角	石英ハ白色ナルモノハ正長石ト共ニ粗ナル文象構造ヲ示スコトアリ	柘榴石、青玉、「ゼノタイム」等ヲ隘伴ス	竊岡縣糸島郡竊曺村浮岳ノ北麓ニ於テ雲母片岩中ニ貫入セルモノハ	糎ニ塗スル電氣石ヲ隨伴セリ東松浦郡嚴木村酉字土ノ北酉及雷山ノ東方ニ於テ結晶片岩中ニ貫入	晶ヲ雑フ石英ハ共大部分ヲ	小城郡南山村杉山ニ躑出スルモノハ其幅十數米ニ速スル大岩脈ニシ	ヒ時ニ放射氷ニ集合スルコトアリ	スルコトアリ電氣石ハ黑色ヲ星シ長柱狀或ハ長針狀ニシテ多色性著シ	正長石ハ分解シテ汚濁スルヲ常トシ屢々淡紅色ヲ帶ヒ石英ハ正長石	副成分—— 科長石。鱗灰石。電氣石等	主成分 —— 正長石石英及雲母	岩石 白色ヲ是シ楓メテ粗粒ナリ	スレトモ稀ニ十米餘ニ違スルモノアリ	「ベグマタイト」本岩ハ花崗岩類或ハ結晶片岩ヲ賞キテ岩脈ヲナシ北
シナテス	ルモ	岩類	1		粍内	柱狀	ホ	二 産	色	裏ス	テ	ኑ ፖ	長 石 ノ	モノ	中二賞	ト稱シ	岩脈 =		色性著	ハ正長					ヲナシ
れ ノ ハ 細	アリ	「接シ基	雲母	۰.,	ノ錐	シテ	二 及	淡紅	テ多	<b>ヲ</b> 常	柱狀	又淡	黒	、共幅	セル	取セ	テ 長		ク 長	ト共					其幅四
》 和 粒 乃 至		<sup>茲</sup> 性深成	花崗岩ヲ		狀晶 ヲナ	長サ五粍	フモノア	色乃至暗	角長柱狀	トス、柘榴	ヲナシ往	紅色ヲ帶	母、電氣	大ナル朝	本岩脈	ラル	石へ肉気		サ敷糎る	二文象世					米以下
二中粒質		~ 岩 = =	「貫き、叉		2	七徑 三粍	ノリテ多	<b>暗紅紫色</b>	ポニシテ	個石ハ大	仕々集合	市ヒ半透	石紅柱石	部分三於	ハ長サ数		紅色ヲ帶		以上二及	構造ヲ呈					ヲ普通ト

11 II

北 伯 獿 22 セ ス 楕 ÷ 楔 -25 露 ~ ŀ 著 角 閃 化 長 東 n 輝 副 岩 壞 鰰 主 本 N 圓 岩 7 岩 狀 出 大 球 織 閃 ÷ 2 斜 副 主 石 -17-松 2 ÷ 戚 成 石 界 畲 石 岩 -10-體 質 默 石 V 或 箙 ÷ + 普 2 石 長 成 成 浦 Ξ 郡 斑 -1 分 分 22 1 2 1 7 等 閃 3 ~ 石 IJ. -通 長 -石 分 分 郡 次 晶 氟 7 無 灰 剕 = 圖 7 + 里 n 綠 粒 38 22 糲 五 柱 比 2 获 北 的 以 ŋ 色 뽔 讀 IJ 然 幅 ÷ 綠 2 ŋ 岩 胀 淡 以 粍 胀 2 長 鐵 Ŀ 7 多 角 200 뾢 鄮 色 村 ÷ 地 十五、 長 推 色 1 7 责 以 E 或 槶 柱 縰 斜 乃五 饋 二及 雲 ナ 久 閃 Ŷ 石 E \* 内 徑 2 × 黎 本 昰 × 12 -F 2 狀 籬 長 母 村 粒 石 2 テ 角 合 n -崩 z 岩 五 球 2 逮 短 7 ナ 乃 テ 石 石 5 岸 7 7 磁 2 閃 漏 透 緑 = ~ 瓶 顆 壞 柱 n ~ テ 帶 2 1) 尠 至 榍 角 多 含 大 鄮 鐵 Щ 石 黒 角 ÷ ኑ 小 = 分 乃 北 部 -散 稍 胀 Ł 劈 + 卓 石 閃 量 有 部 石 織梢 霰 1 1 及 色 7 區 恐 閃 至 ŀ 雕 多 稍 褐 開 7 在 2 敭 磁 石 7 -東 -1: 分 젉 城 出 25 25 ŋ Ξ 热 2 2 次 ス 34 龜 ナ 色 角 -鐵 存 方 ŋ IJ 輝 畾 石 長 斑 2 セ -+ 灰 3 3 村 裂 ス、長 7 色 閃 2 鏞 斜 晤 石 2 在 11 结 石 n テ 現 糠 n 色 共 糲 相 帶 發 性 石 7 绦 地 長 ÷ 緣 大 出 э 僅 -内 ÷ 1 北 壗 2 7 Ł 柱 2 大 y 石 -色 ŋ 岩 + 1 カ ス 外 間 方 > 示 斜 浦 昰 2 覃 尹 於 1 -變 0 n -2 7 陇 + 北 佛 長 往 z ₹ 綠 'n 往 帶 5 2 搢 七 白 25 普 充 n 恐 坊 方 石 + A. 色 \* テ 過 裼 n ÷ 耗 色 通 附 塡 ~ -3 及 繊 z 7 料 高 厜 2 部 黑 ÷ 11 丰 2 ŀ 部 近 岩 2 磁 繿 モ 呈 以 陵 1 x ÷ F 7 ス 色 ス ŀ -塊 角 鐵 狀 1 z F 土 成 纎 1 雜 1 -25 發 v э 閃 7 鏑 7 ~ n 7 化 緣 維 -<?.極 因 2 2 IJ 達 ŀ ナ 石 星 粒 最 外 書 狀 テ 灰 -5 2 テ Ŀ ÷ 成 -te 2 大 33 ₹ 2 皺 涌 殆 色 R 7 テ 劈 × 閃 大 y N F ŋ 34 鐵 ナ 青 ŀ 昰 短 ₹ ÷ 開 テ 糅 2 中 ナ 球 變 20 量 鑛 n 色 2 昰 1 2 柱 龜 粗 岩 3. n 顆 性 館 化 -粒 ÷ 7 聚 7 時 狀 大 쾿 セ 粒 ŀ ÷ 深 2 セ 2 包 7 1 帶 片 部 ŋ - 22 1 N 發 堅 密 1 球 成 n 3 裹 包 長 Ł ゥ 双 分ウ 單 中 逵 硬 接 -醋 岩 裹 -6 N ス ·P· 3 晶 晶 7 -2 + + ア 棔 中 1 = 二五 ÷ n ス n 7 輝 ル石 3 7 n -IJ ŋ 圓 ----ナ 1 モ 短 糎 ÷ + 四 石 + 部 闘 n 醴 5 柱 -V ナ 1 石 -1 z 或 = 2 係 角 相 12 或 ŀ n 釈 12 及 7 46-化 IJ 25 大 閃 7 1/4 2 ł. ÷ 岸 7 ~ 7 IJ 1 變 縰 石 セ + 有 + 扃 共 2 2 Л ナ ÷E テ 14 化 泥 n N = 2 糎 25 テ 產 榍 附 ス 1 13 2 石 變 角 -20 モ 屢 -ナ 生 驮 石 近 ÷ 7 色 共 1 閃 n 25 化 A. 逺 n 成 並 18 -1 性 V 景

岩石 黒緑色緻密ニシテ主トシテ蛇紋石及磁鐡鑛ヨリ成ル 岩石 黒緑色緻密ニシテ主トシテ蛇紋石及磁鐡鑛ヨリ成ル 日、「八、角閃煌斑岩 「八、角閃煌斑岩 「一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、	兩者ノ境界ハ朝然セサルコト多シ 十七、蛇 紋 岩	石ョリ成ル 石ョリ成ル 石ョリ成ル 石ョリ成ル 石
---	-----------------------------	---------------------------------------

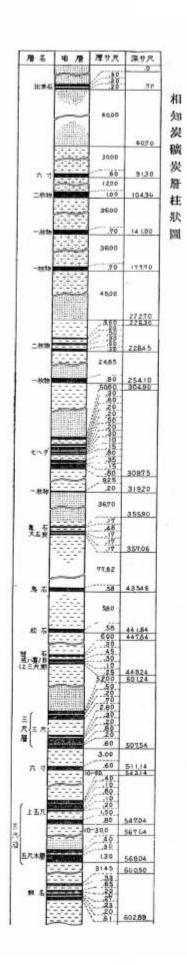
子へ     満 通 耗 帯     色 造 ナノ帯     武       山 培     晶 ト = 構     粗 ヲ レ 短 構     岩
--

武 岩 此 в 3. 1 A 相 狀 考 4 蛇 等 IJ 笠 岩 次 12 顏 角 ŋ 7 閃線 + 相 半 兩 花 T. 2 自 紋 花 石 斑 頭 檝 岩 --E ŀ 閃 分 遨 y IJ 互 花 崗 7 25 雲 闘 惎 形 石 晶 山 兩輝 同 欖 石 各 煌 3 化 性 振 岩 崗 25 母、黑 n ŋ 斑 漸 岩 1 -石 等 岩 斑 -÷ 岩 橙 2 複 岩 移 岩 • 第二章 類 柱 趱 テ 石 岩 岩 暗 2 類 ~ 2 2 岩 結 岩 質 雲 結 狀 化 及 2 柝 大 本 25 灰色乃 貫 安 橄 1 漿 1 ÷ 常 花 2 品 脈 母斑 石 叉 晶 本 叉 木 サ 岩 カ Щ -1: 欖 噴 3 11 1 -1 -結 片 7 崗 Tr. 片 圖幅 英 肤 ~ 0-11 n 岩 上 石 -出 n y -相 晶 橉 岩、牛 岩 格 岩 卓 斑 狀 -1 -及 至 . 並 Э 時 1 外 近 片 叉 成 黒雲 煭 地 岩 貫 쇍 釈 應 7 盡 ۴ 粍 刹 灰 IJ 魯 = 北 代 接 + 岩 ~ 花 ÷ 気黒色ヲ 通 1 域 長 2 7 7 構 觀 課 性 乃 長 性 2 7 及 2 用 花 n 崗 謨 母合 生成 花 ノ大 石輝 2 呈 IJ 火 至 石 成 n 母 明 分 深 ス 深 テ 闘 岩 ÷E 闘 輝 何 鐵 此 2 Ŧī 散 ÷ 地 角 カ 化 成 霄 成 岩 及べ 1 成 等火 岩 v 角 -412 石 犬 石 粍 븠 閃 在 ラ + 岩 岩 出 岩 7 類 鏞 督 閃 嚮 7 ÷ 7 微 \* n 安 岩 22 ₹ ス 2 5 ŀ ŀ 2 中 ŋ y 7 石 接 占 貫 晶 = 大 同 普 v 級 山 山 \* 認 密 共 何 = 貫 77 相 源 뿂 + 磁 粍 ÷ \* -19-岩 通 ŀ 嚮 岩 v 4 接 現 V \* = 9 雲母 n 共 鐡 岩 N Ξ 小 互 ŀ 2 ÷ 堅 ~ ŀ ~ + 毛 2 花 テ 1 關係ヲ 露 縶 基 鑛 F 耗 2 多 蓋 古 硬 モ + 五 N  $\nu$ 崗 現 ト 出 ヨリ ノ谷 盤 1 粒 以 量 2 2 概 第三系 共 恐 關 --0 岩 25 出 7 第 ₹ 燐 ÷ 下 ネ ナ 7 2 1 係 一部 關 密 2 類 花 花 有 構 ナ 分 灰 Ξ 2 -新 7 テ 2 + 7 接 琏 噴 闘 係 化 崗 石 ス 成 2 勢 e 紀 7 中 ŋ 鮮 ス 往 IJ ~ 出 ナ 飁 岩 花 岩 n 末 ÷ ÷ 針 2 テ 外 貫 + 4 生 蛇 テ n 岩 末 類 崗 2 ÷ 透 1 N 及 聚 莱 V 樹 牛 -代 相 閥 紋 = 期 及 岩 ÷ 91-1 玻 片 輝 ÷ ŀ 12 1 テ 脂 或 伴 係 岩 結 12 = 噴 1 花 . 璁 看 递 噴 1 双 ÷ 量 光 1 E 7 -同 晶 ŋ 出 崗 如 盡 出 --晶 -周 澤 出 共 1 有 テ 移 岩 テ 片 外 直 閃 2 等 屬 ₹ 餯 24 2 2 輝 7 以 現 過 貫 漿 岩 セ 綠 前 後 + 部 之 デ н ナ 2 石 帶 係 前 ~ n ÷ 3 3 類 9 岩 1 2 古 ŋ ス 僅 7 及 7 Ł n + N ÷ N y V 7 Ξ 貫 + -テ 生 成 ÷ 3 被 歙 y 4 ÷ N 分 ۰, 1 3 叉 貫 80 覆 入 n 麗 本 層 ŋ 1 12. 쾿 1 n ~ ŀ ÷ Ż 化 -÷ 7 別 岩 塡 7 + 2 22 в 存 25 玻 2 7 1 2 -2 岩 示 係 -te 類 ŋ 間 ŋ 在 n 安 沿 璁 y 22 F 漸 生 脈 -2: n 山 n ₹ 變 禱 ス 質 ~ E 同 此 2 移 成 7 ÷e 兩 斜 草 IJ 質 岩 2 造 1 テ ---1 ス ÷ ナ 雲母片 此 長 -10 7 緞 ÷ 2 花 岩 如 n 2 2 玄 等 y 昰 石 色 1 崗 漿 3 = ÷ 往 ~ ŀ ス 2 1 7

岩		礦		炭			相			r		7		-		10	4.	-1-	来			アリ	綿ヲ	杀		掘	束
屋	(六)		(五)	ŀ	(四)	Æ.	知附	(三)	相	7	(二)	2	*	资		(→)	主ナ	本炭	唐津	石炭		r	產	ぷ島		в	不松
及		於		云		尺	附		知	特		A	Ŧ	7	21.2	殿	n	田	炭	5		云	-t:	郡		y	浦
小	-t	テ	龜	7	賽	層	近	三尺	附	徵	五			r		*	炭	=	田	本		7	y	怡		テ	郡
城	~	~	石	名	>	及	=	尺	近三	۴	尺					五	層	於	r	圖		120	共	±		試	嚴
附	y	大	炭	稱	目	Ξ	於	曆		z	曆			目		尺	7	5	稱	幅			厚	村		掘	木
近	炭	石		2	或	三尺層	テ 最		於		57251		4	an 🛛		居	F	n	÷	地	Ę		-11-	八	-	÷	村
25	政	炭	本	F	~		敢	本	デ		本			付			部	代	2	內				Т		ラ	椴
於	1	1-	炭	-	*	~	モロ	層	最		層	2	E .	丘		本	=	表	v	25.	石		糎	Щ	石	V	1
テ	化分	稱	層	稼	ノ目	共	良奴	~	毛		~			-		層	ŋ	的	3	於			75	附		\$	木
發達	物? 炭	セラ	へ厚	行	日炭	二相	好ナ	全国	良好		全		k :	於		~	.E.	炭	n	テ			至	近		÷e	28.
歷良	BK	r	ゆサ	セラ	展	如	л	厚	テ		厚			F .		夾	部	屜	毛	~			五	1		1	於
反好	本	稼	0	n	唯	炭	發	Ξ	n		亡					ε	-	柱	1	古	炭		糎	橄	414	ナ	テ
+	影	行	O.⊟	10	本	磁	遠達	一米	發		七米	1	支	<b>炎</b>		比	順	狀	•	第	be		內	欖	綿	v	蛇
n	炭層	-12	一米		下層	並	7	75	逾		不乃	r *	9 7 1	e E		較	次	圖	大	三系			外	岩		ŀ	紋
÷	2	9	乃		~~	25	+	乃至	7		重	1	E .	es: ال		的	略	۲	华				ナ	中		*	岩
相	夾	n	至		全	岩	z		+		=	7	la k	z		3	記	*	7	中			V	1		該	ф
知	2		Ģ		厚	屋		充	2		*	1		2		2	z	テ	占	=			ŀ			鏑	-
1	丧		pg			炭		米	岩		米炭			e		全原	V	相	4	挾			-E-	部		床	扁桃
西	3		米		〇 元	礦		米石	屋		層	긝				厚	~	知		有			良質	分解		へ蓋	秋
方	勢		=		米	25		炭	附			-				一式	次ノ	炭礦		セラ			見ナ	アポーシ		.m. シ	ア
=	2		2		乃	於		0 t	近		米	1		in 📗		~ 米	如	1		v			7	7		規	+
於	變		テ		至	テ		t	20		75	柞	ł	2		内	2	炭		炭			x	鮀		模	++
テ	化		炭			主		米	於		至	4				外	-	層		居			嘗	紋		大	n
~	-		質		米	要		75	デ		-	2	(			炭		桂		1			テ	岩		+	格
炭	富		2			炭		至	厚		π.		-			層		狀		數			小	化		n	咎
質	4		Ξ		達	層		Ξ	+		米	ち				l õ		圖		2			规	e		÷	謨
恶	7		尺炭		シ、岩	ŀ	1	.str.	稍			-				야보		7		數			模	雷疾		1	鐵
化シ	以テ		<b>次</b>		石屋	2		米	滅		逺	方				米		揭		-1-				岩		25	鎮
			亜		産炭	テ稼		達	-t: 1)		ション	7				凶		2		餘			採	中		~	胚
尖減	一名		非		張	保行		地シ	9		厦	8				外				25			取	#		7	胎
ス	化		良		ыц =	11		前			々健	f				ナ				逺			セ	帶		ラ	セ
n	物		好		於	ラ		向炭			低化	1 3				y.				z			5	狀		*	7
÷	100		ナ		テ	n		層			木	ĩ				誠				本			v	7		n	1
>	稱		y		~			1			不ヲ	3			Se	錐				地			9	成		~	晉
	セ		岩		Ŀ			同			险	1			1	1				堿			n	÷		÷	テ
如	5		屋		=			様			伴	1				結				~			-	デ			雷
2	n		炭		三尺			-			ス	Ŧ				果				從			ŀ	石			天

抗ヲ開 至 層 僅 在リ e 瀐 + 炭層へ 白色砂岩 運 25 本 力 本 層 = 本炭 (七) 東部 в 坑 搬 磃 地 鹿 驚シ 城 y ~ 業 鏚 = シテ稼行セラレ 其 劳 -明 供 テ ~ 1 事 2 他 治三十 谷 緩 曆 相 主 2 大正 ÷ 務所 三菱鏡 ラル道 露出 層 傾 接 ۴ 7 以 包容 七年五 F 斜 ÷ 4 2 E (--) 唐津 三年 シ炭 業株 部 7 y テ 1 相 路平 古 ス 外 + 1 第三系 暦ヲ 知本 末 線 相 五 月 タル 2 n 定 共 三菱合 半 尺 現 = 坦 相 會 知 Ŀ 師業 層 驾 疢 坑 過 -15 痴 社 ÷ 炭 -及 有 謠 1 25 + Ŷ 曝ブ 唐 1 六 福 ス、地 三尺 權者 資 構 坑 鳳 ス テ 津礦 + 4 交通 造 會 п ス 距 2 及出來石等 層ハ 層 7 附 n 1 社 л 業 示 發 近 劳 紦 至 1 西 所 本抗口 逮 營 便 -t: = 谷 有 方 25 最 於 ŋ 層 = -+ 一粁 屬 移 ÷ テ 並 巅 ス 1 ノ炭層アレ 良好 附 2 = V 2 餘 n 近 劳 蘆 IJ 爾 25 相 mi -7 谷 屋 來 在 知 頂 v 曆 曆 2 諸 ŋ 磤 テ 部 テ テ 25 H 般 區 ŀ 本 主要炭層タ ŀ . 屬 ŋ 1 鐵 -÷ 2 成 闘 改 道 z 2 何 東南西 n 幅 良 引 ŋ デ v 白 兩 地 擴 込 佐 ÷ 色 曆 内 張 緑 賀 厚サ二十糎ニ リ、目下該二炭層ノ 砂 1 7 1 -22 縣 三方 岩 賂 計 ~ 相 東 相 及 南 ŋ 痴 松 坑選 -頁 北 痴 大 浦 炭 向 岩 Æ 郡 25. 磃 Ł 1 走 六 炭 充タ 相 五 Tr. 年 V 鑛 場 倁 腚 層 绾 n 區 25 村 步 外 75 並 斷 1 -通 25 n

卤



乃至九十米每二左右 ハ岩石中 芳谷層上部ニ屬ス 用途ハ 七へ〆層 三尺層 最近ニ於ケ 探炭セ 五尺層 探炭へ長壁法 炭質ハ粘結性瀝青炭ニシテ分析ノ結果ハ 炭層名 同 昭 シモノ 年 主 -和 ŀ 斜坑ヲ 11-111 ニーニス - 九0 水 网 五 ル出炭高ハ次ノ シテエ場船 六 分 ハ抗内 年 藓 開鑿シ十四度乃至二十度 ヨリ手掘及 n -三八・二六 せっ 四二•四〇 三九・二五 揮發分 走向ニ沿ヒ水平 ニテ 塊炭 粉炭 ニ 舶ノ汽罐燃料ナリ ダ炭暦ヲ採掘セ 如シ(但シ相知芳 被炭機 ニョ 数量(題) 東京・七日 三 六 コ、コ 〇 セ 四〇四、〇八三 四一・九二 五二•七七 固定炭素 選別シ ・抗道ヲ v 1三•八八 ÿ ヘノ下リ 次 / 如 五・七七 ル外電氣鑿岩機ヲ 五·七四 族 搬出セ 設ケ 谷雨坑産額合計ナリ 分 タリ 傾斜ヲ以テ 2 五五•八〇 五八·五四 五九・四六 n 骸炭分 ÷ ノヲ 選炭機 本師ヲ掘進シ着炭點ヨリ七十 用斗發破探炭ヲモ併用ス探掘 二・三四 **一**. 第0 一·二九 職責分 з 六、六〇〇 七、コ六〇 七、四八〇 殺熱量(カロリ ŋ 選炭セ ŋ い粘粘性 强 顕 强

二五五

米坑     三ル乃       乃二     十優至       五二     十優至       五二     三良四       大乃     三泉四       大乃     三小十通大       夏     七一五六一六       六及     二一五六一六       六及     二一五六二、二六一六       六五     八月       十     一五二、二一六       十     一五二、二一六       六方     八月       十     二二、九、〇       二二、九、〇     二二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二	炭層=着炭セシメ其傾斜=從ヒ坑內本卸ヲ設採炭ハ前進式長壁法=ヨリ手掘及截炭機ヲ	<i>物</i> "生	クロットン センニカー	硫 黄 分・四〇	炭 分 四-九一	酸炭 分 五六•三七 五	揮 资 分 四二•三三 四	水 分 1-三〇	成分 炭種 三尺炭 エ	主要災ヲ分析セン結果ハ次ノ如シ八幡製	炭質劣レリ、一般=優良炭ノ塊粉ノ割合ハ夫ト	上三尺炭三尺炭及下三尺炭ハ何レモ唐津忠	二十度內外ノ處多シ	何レモ走向ハー定セス、傾斜ハ隨處其角度ヲ関		目下主トシテ採掘セラル、モノハ上三尺点	ヲ觀ル	岩ノ現出スルモノアリテ該層ヲ被覆セリ酸土	礦區四近ハ主トシテ古第三系ヨリ成リ北統	炭礦株式會社ノ經營ニ移リ今日ニ至レルモ、	抗ハ同四十一年第二抗ハ大正二年第三抗ハロ	收合併シ次テ同四十四年再ヒ附	本炭礦ハ明治七年頃三尺炭層ヲ採掘セシ	岩屋驛ノ西二百米ニ在ノ附近ハ地勢概シテレ	本炭礦ハ佐賀縣東松浦郡畿木及相知兩村	(二) 岩屋炭礦	阿八 邻 一一八、九九
	ケ三十五米乃至六十使用ス、一坑二坑及三		÷			五三•八五 五二•〇五	四五•00 四六•六0		下三尺炭 大石炭	分	十七對三十三內外	ニ於ケル優良炭ニ		シニ度乃至四十五	3 - 4	相知		及平山川流城二八	斷層ニヨリテ花崗		年ノ開鑿ニ係レリ	有餘ノ小礦區ヲ	マリ同三十三年貝	ニシテ交通至便ナ	西松浦郡大川村三		0

繼承 船 22 V 九 明 7 嚴 場 御 同 2 滑 略 以 舶 採 礦 年 治 本 設 木 蓮 炭 木 出 = -用 -25 最 E 掘 テ 1 西 區 -髇 2 Ŧī. 35 村 炭 途 送 木 坑 卸 炭 坑 近 屉 左 北 憋 ÷ [70] 今 昭 月 + 圓 運 岩 礦 + 2 炭 卸 同 大 2 2 2 昭 2 25 右 同 同 料 西 近 n 日 === 和 -2 搬 屋 简 T ÷ 何 傾 本 本 從 2 ŀ TE = 和 炭 ŀ -1 = Ξ 至 年 明 7 -佐 場 IJ 斜 卸 年 V 平 卸 Ŀ 水 ÷ + 層 走 至 2 地 年 IJ 海 治 在 ----便 賀 ЭĊ 船 22 = 間 ÷ 行 ŀ 傾 坑 -45 四 Ξ IJ 質 ----テ 2 v 唐 軍 初 = ŋ 縣 + 쭈 斜 = 舶 소 2 п 坑 (三) 年 年 46 Sel. 征 南 使 F IJ 月 1 津 年 豫 -2: Ŧ 東 度、延 部 通 行 於 1 + 33 道 用 x 前 古 礀 兵 唐 ----備 IJ 松 氣 燃 邐 八 5 ÷ IJ 2 枚 西 記 河 囊 新 -te 炭 部 津 浦 炭 料 及 長 度 -1 2 設 N 駒 ラ -岩 畫 秼 田 省 屋 線 霜客 二九七、二〇五 100、一六九 二九三、九三八 = 六 二八〇、五四八 出 7 機 人 延 百 1 5 .L 六 Ξ v 屋 定 解 岩 э 嚴 敷 主 道 百 通 長 炭 25 米 3 \* オノ目 Ξ 谷 度 炭 氏 會 放 ŋ 屋 木 炭 -Ξ 高 ŀ 坑 氣 Ħ 1 IJ 二二八 炭 尺 75 釄 瓧 2 ŀ T. 驛 及 + + ij. ۲ 及 姃 2 礦 2 -及 至 1 虵 經 部 -同 7 相 長 次 米 水 選 ス X 六 坑 \* 塊 -t: 营 於 域 時 省 南 痴 洗 別 以 米 1 28. 道 7 本 慶 粉 1 テ 10 --次 方 雨 如 粗 2 .E テ 坑 -有 卸 目 1 -發 買 移 炅 + = 村 11 炭 大 1 テ 2 ŀ -1: 23 割 傾 1 撞 IJ 較 有 距 25 塊 尺 -各 ス Ξ 25 r 佰 Ξ 合 斜 .E ÷t 昭 2 ŀ 海 n 跨 卸 炭 中 尺 自 ÷ 斜 三尺 層 1 ス 次 和 約 R ナ 軍 ŋ 塊 炭 -家 2 屠 1 次 ŀ  $\nu$ 四 5 ÷ ŋ 省 岩 'n 用 及 幅 25 層 + 22 ŀ 1 X 2 年 大 爾 屋 2 194 燃 粉 着 2 度 = 同 间 詞 同 昭 炭 如 ÷ 3. 現 正 後 所 粁 炭 米 炭 炭 延 料 會 7 質 小 ÷ 2 11 在 小 關 餘 儲 和 乃 之 長 ŀ --2: ÷ 斷 = 23 様 1 規 炭 -25 篩 至 7 Ξ 六 五 2 N n 凡 ÷ 四 <sub>,</sub> ۴ 曆 古 年 模 ----25 田 位 隣 一枚 同 分 pų 圭 モ 毛 百. 鉦 危 般 2 河 八 ŀ -\$ 接 米 1 徴 水 要 Ξ 1 物 ----12 7 鍽 月 稼 + 此 2 牛 粉 洗 運 + --稍 ŋ 古 業 唐 行 ŋ 間 テ 搬 米 22 2 = 2 2 粘 7 第 合 律 ÷ 大 暹 存 二五五、八 2 坑 焚 テ デ テ 餘 ---------二 結 四三、九二六 鸫 Ξ 採 五七、四 名 5 石 三七"九一六 搬 在 道 12 用 夫 主 テ 邐 = 八 -M 性 位 炭 系 會 炭 用ニ v 2 高 搬 要 ŀ 殼 At 2 7 -2: 3 社 株 3 7 靍 ÷ 四六 1 貨 運 坑 -t: テ 八九 n 帶 R ŋ -左 y 採 2 橐  $\equiv$ 原 搬 六逃 車 道 y Ξ 處 Ŀ 會 成 讓 2 掘 F 專 料 米 積 3 坑 尺 T 7 y 渡 祉 \* 2 肠 V 炭 餘 道 ŀ ŀ ŋ 場 之 y 岩 大 -t: ŋ ス 所 ナ 2 39 ス 1 -Æ 及 曆 ラ 7 ŋ 緑 23 市 IJ y. 着 遖

九

三養基郡三川	賀縣小	場ノ規模小ナ	T	用石粉ヲ搗	福岡縣早良	セリ、石灰爐	佐賀縣東松	turt	非国日常		テ三尺炭ノ	本職ニテ	第一坑全部	本炭礦ハ		同	Fil	同		最近 = 於	ヘリ而シテ	採炭ハ本	,粉	塊
11	郡	小 養 ナ 基	五	成	115		.浦	四、	ノ 明		下	稼	採	佐					和	ケ	テ本	坑	炭	炭
村		レ郡		セ	內		郡		禾		約二	行セ	炭シ	賀師	(00)	五.	P4	Ξ		ル出	坑	及一	步	步
神崎郡	多久村	トモ多	粘土	y	野.村石	基有ル	嚴木村	石	二 - 句 三		百十	シ炭	<u>悲</u> シ	縣東松	(四) 住	邻	年	邹	年	炭高	= 於 テ	及二坑ノ	合	合
久保泉村等二於	莇原ニ於テ古第	多数アリ	及甑土		釜及曲淵ニ於テ	1 2.	村殿木=於テ石英片	灰	一プヨニ瓦岡		米無存在セルモノ	暦ハ古第三系ニ屬	タルヲ以テ操業ヲ	浦郡嚴木村ニ在リ	友嚴木炭礦	二八、七九一	三五、〇七五	三五、四六七	三五、一一七随	ハ文表ニ示スカ如	ハオノ目炭及上三	劉坑=依り 潜炭ノ	五 四 %	四 六 %
テ、更新完中ノ灰	三系中ノ粘土ヲ	テ更新統中ノ			糖晶質石灰岩ヲ		「岩中ニ介在セ		三年二一ア三五尾		ナ リ	スル最下部疾患	休止シ坑ロフ閉	任友九州炭礦株			阔	同	昭	2	三尺炭ヲ二坑ニサ	上長壁法ニ則リ	四 五 %	五 五 %
色乃	採取	粘土			採取		ル糖		ナリ		1	炭層	鎖	式			八	-12	和六		於テ	デ		
至	9	ヲ	8		2		晶		+			ナル	シ、抗	會社			áj:	Ap:	áj:		~	手掘	н	六
黄灰	テ 煉	採取			石灰		質石					嚴	內	1			\$2	0	1		下	凯及	Æ	五
(色)粘土	~ 瓦ヲ 懇	~ シ 縦 及			(ヲ 能 成		石灰岩ヲ					木層中	ノ 諾	有ナル			三五、四	二五"九七三	二七、三六八		枚物ヲ	<b></b>	%	%
Ŧ	造	鉢			ス		採				1	ノ嚴	設備	玉昭			四六一	九七	콫		採掘			
採取	ス	物等			ルタト		取シ					木	7	和				H	八随		-t:	ŋ		
2		フ			之		石					五	撤	E					1.18.1		y	テ		
デ 瓦		製			3		灰					尺炭		年十								採掘		
見ヲ		ス、陶			リ精		ヲ嬔					= ~	7	· 一 月	.,2							ヨ行		

供 端 浴 明 及 還 石 R -色 セ 東 共 含 攀 天德 泉 安 彦 垣 花 熊 供 透 橄 圖 古 秘 佐 他 岳 极 搅及岗石岩 IJ 癄 緣 ハ單 11 ш 明 幅 ス 湯 岩 賀 鐵泉 温泉 5 響 浦 v 艑 岩 1 地 縣 溫 ~ 郡 谷 泉 V 赩 北 ŀ 臭 ~ 八碑八 內 泉 白 東 ŀ 口色乃至帶黃白。 溫\* = 随 七 莇 泉 小 麓 -----八 泉 毛 = -六 城郡 = 產 石,用 原 --12 屭 處 於 佐 小 -2 佐 -砂 屬 灭 賀 屬 城 ŀ \* 採 2 部 賀 テ テ 德 稱 ラ 取 セ ル セ 原 ス 縣 郡 Ξ z 建築石 帶 單 建 2 縣 2 温 砥 鏑泉 쑠 n 小 譅 南 火 純 里 n 赤 小 椠 泉 ÷ 7 褶 城 度 村 9 -モ 山 譅 泉 城 石 坂 v 湧 ŀ ~ 村 1 色 綗 ヲ 21S 及 1 2 材 -色 浪 澄 3 出 稱 攝氏 井 大材 25 E 加 ~ ۴ 「潮ニ於 屬 南 班 鑛 材 明 次 及同 :12 ス 以 2 熊 ~ 理 2 Ш 2 材 三十 E 內 村 九州 n -Л テ 溫 泉 7 7 7 村 村牛 ÷ 1 服 2 富 唐 有 得 花 大塊 、テ古第 -使 古 並 外 テ 六 地 1 1 在 用 闘 ~ 湯 2 v 四 收 7 -度 方 浦 1 外 ŀ ŋ ス 攝 = 岩 7 松 愈性 內 尾 y 外 学 浴 テ 橄欖 三系 氏 -觀 ÷ 在 挅 浦 用 外 Л テ 111 Ξ = 遠 販 稍 含 取 ŋ 郡 104 = 鉞 仁 + 產 出 .E 美 -25 テ 2 岩 4 中 顏 湝 供 味 シ、石 田 2 Л + ナ 他 及安 Ŧ. -t: 兩 得 1 泉 木 七 7 -テ -數 度 32 5 n = 砂 n 村 或 7 具 於 前 垣 滑 軒 7 販 Щ 內 母 n 岩 ₹ 御 22 並= V ~ テ 記 Ł 以 出 岩 -外 花 11 ヲ 所 單 遠 酸 古 5 = 兩 及 + 闘 -te 7 採 . \* テ 蘒 小 第 7 性 於 雲 ŋ 石 圭 ラル 產 Ŀ 沿 角取 三系 城 他 泉 反 35 母 夏 画 碑 ŀ 1 ス *シ*、売 砥 郡 應 --2 N 花 期 出 -• 裂 材 Щ 販 4 使 屬 ₹ ÷ 崗 箇 テ 最 餘 ÷ 砥 及 上村 出 星 3 2 1 岩 處 用 石 ÷ 中 1 丸 材 火 y ÷ z --te 塔 + ŀ 1 浴 Ξ 砥 ŀ 大 湧 溫 ラ 顶 5 同 꼜 容 7 è ŋ 材 2 7 蹞 出 出 リ、諸溜 n ÷ n 種 線 使 多 湧 テ ŀ 加 ス、泉 寺 量 ナリ 中 2 出 用 ŀ 使 Ŷ 劣 -小 ŀ 3 ス ÷ 2 用 テ 7 城 量質 ラル Z テ y 2 溫 使 セ 澡 町 + 2 湧 7 土豪 テ 泉 用 IJ 浴 1 灭 7 酸 出 澡 ~ セ 北 = ス性 浴無 111 石 2 5

四三

		昭昭和和		
		昭和十年三月三十一日 發 行昭和十年三月二十七日 印 刷		
		을 끈		
<b>Z</b> *	印 印	著一七		
發		著 一七日 田 曜 厨 有		5 A
行	刷刷	所行刷		
所,	, 所者 東東	伯		
京市麹	京 京 市 市 深 ※			
東京市麹町區下二番町四十八番地	東京市深川區白河町四丁目一番地一東京市深川區白河町四丁目一番地一方	商		
小下し	京河 河			
京番町	印一井口	郵定 工 稅價	20	
地十	刷量量	工 稅價		
學番地	株 番 番 地 式 一 方 一	<b>上</b> 金金 金金 四六 四拾		
協	式 會	四 <sub>拾</sub> 省 錢錢		
會	<b>計</b> 利	省錢錢		

## EXPLANATORY TEXT of the GEOLOGICAL MAP OF JAPAN

Scale 1:75,000

OGI Zone 33 Col. XXIV Sheet 279 By Tsuyoshi Akagi

(Written in 1934)

(Abstract)

## GEOLOGY

**Crystalline schist** comprises alternating beds of several kinds of schists such as biotite-schist, quartz-schist, epidote-chlorite-schist and epidote-hornblende-schist, intercalating thin layers of limestone. The general strike of the plane of schistosity is nearly from east to west, the dip being toward north at 50° to 80°.

**Palaeogene** is the coal-bearing series constituting the Karatsu coal field. The formation is, according to Dr. Nagao, divided into two beds, the Öchi and Ashiya beds, as mentioned below in ascending order :

(1) Õchi Beds are again divisible into two parts;
(a) Kyūragi and (b) Yoshinotani beds.

(a) Kyūragi Beds consist of an alternation of sandstone and shale, intercalating a coal seam and fossil zones. Athleta (Volutospina) japonica Nagao, Orthaulax japonicus Nagao and other molluscan fossils were described from the beds [Athleta (Volutospina) japonica zone of Dr. Nagao].

(b) Yoshinotani Beds are composed of white sandstone and dark gray shale, intercalating many coal seams, of which the Goshaku-Sö and Sanjaku-Sö are the most important.

(2) Ashiya Beds consist of dark gray shale and sandy shale, with interbedded glauconitic sandstone having molluscan fossil zones.

The strike of the Palaeogene coal-bearing series is variable in places, while the dip is generally gentle, ranging between 5° and 15°. The Series is considered by Dr. Nagao to be of Eocene.

Pleistocene and Recent are each composed of sand, clay and gravel. The Pleistocene forms hilly lands, while the Recent constitutes low plains or seaside dunes.

Two-mica-granite, Biotite-granite, Hornblende-biotitegranite, Porphyritic biotite-granite, and Granodiorite are the differentiation products from the same magma intruded into crystalline schists. Aplitic granite, Aplite and Pegmatite are found as dykes piercing granites and crystalline schists. Diorite and basic igneous rocks such as Peridotite, Gabbro and Hornblende-lamprophyre occur as bosses or stocks intruded into granites. Two-pyroxeneandesite and Hornblende-andesite extruded and flooded over the Palaeogene formation. Basalt is the youngest of the eruptive rocks in the sheet-map area and covers the Palaeogene formation.

- 3 -

## ECONOMIC GEOLOGY

**Chrome Ore** occurs as lenticular masses in serpentine, but the deposit is not large enough to be worked.

**Coal** occuring in the Eocene formation has been mined at three places. Coal-seams vary from 0.5 to 2 metres in thickness.

At the Õchi colliery, Goshaku-Sō, Sanjaku-Sō and Nanaheda-Sō seams are now being worked, and the dip of these seams is southward or southeastward at about 5°. The production of coal from the colliery was about 118,990 tons in 1933.

At the Iwaya colliery, Sanjaku-Sō and Goshaku-Sō seams are now being worked. The coal seams dip at angles from 5° to 20°, while their strike is various in places. The output from the mine was about 138,000 tons in 1933.

At the Shinyashiki colliery from where about 35,000 tons of coal were produced in 1933, Sainome-Sõ and other two seams dipping from 3° to 7° to southwest, are now being worked.

**Building stone** is obtained from granites, peridotite and andesite at several places mostly for foundation.

Mineral spring which belongs to the so-called simple cold spring is found at Furuyu and Kumagawa in the granite district.